

## GOD WITH US

Part 11: LATER LETTERS

### Message 4 – Pastoral Epistles

Paul's Final Letter

#### 2 Timothy 3, 4

神はわれらと共に

パート 11：後の手紙

第 4 メッセージ – 牧会書簡

パウロの最後の手紙

テモテへの手紙 第二 第 3、4 章

### はじめに

パウロの最後の手紙の締めくくりに、愛する霊的息子に厳粛な言葉を記しています。神を信じない者がますます増えていく世の中で、神の僕にとっての未来は、ますます困難になるでしょう。聖霊様の御霊によってパウロは、テモテ自身と次世代に何が起こるかを警告していますが、同じ警告が今日の私たちにも、更に多くの意味で当てはまります。反対する者たちは、ますます強意を増して、虚勢が横行します。人々は、神がデザインされた方法とは真逆の方法に生きるようになります。したがってテモテは、不変であり、靈感を受けた神のみ言に根ざし続ける必要があります。み言を読み、み言に生き、み言を教え、神がテモテを天に召される日まで、説教し続けなければなりません。キリストの献身的な従者である使徒パウロの足跡をたどり、必要に応じて、神からの召しを果たすために苦しむ必要があります。

### 終わりの時に関する警告：3：1-17

パウロは第 2 章で、神の忠実な僕の 8 つの描写を記しました。それとは対照的に、第 3 章では、「終わりの時」が近づくにつれて、人々がどの様になっていくかを鮮明に説明します。広く解釈されている「終わりの時」とは、1 世紀に始まった救世主、キリストの王国の始まり以来を指しているとも言えます（使徒 2：16-17; 1 ヨハネ 2:18 を参照）。キリストが天国に昇天されて以来、2000 年以上が経過し、千年ごとに、人々の羅針盤として神のみ言と共に生きる風土は、ますます社会から敵対的に見られる様になっていきます。一層悪に満ちていく世の中において、神の忠実な僕になろうとしている人々にとっては、「更に困難な時代が来る」のです。

#### - 終わりの時の人々の特徴：3：1-5

**3:1** しかし、このことは知っておかねばならない。終りの時には、苦難の時代が来る。**3:2** その時、人々は自分を愛する者、金を愛する者、大言壮語する者、高慢な者、神をそしる者、親に逆らう者、恩を知らぬ者、神聖を汚す者、**3:3** 無情な者、融和しない者、そしる者、無節制な者、粗暴な者、善を好まない者、**3:4** 裏切り者、乱暴者、高言をする者、神よりも快楽を愛する者、**3:5** 信心深い様子をしながらその実を捨てる者となるであろう。こうした人々を避けなさい。

(第二テモテ 3：1－5)

神を愛する者ではなく、自分を愛する者へと、お金を愛する者へと、快楽を愛する者へとなるでしょう…。私たちは、神を愛し、神に愛されるために、また自分自身を愛するように、隣人を愛するために創造されました。これは心の問題です。他人を犠牲にして、先ず自分自身を愛するとき…、これこそが見当違いの愛の根源です。終わりの時、人が楽しむために神が創造してくださった被造物を人々は愛し、楽しみながら、神を喜ぶことも、愛することもしなくなるでしょう。私たちは贈り主よりも、贈り物を愛するようになると思っています。

大言壮語、傲慢、うぬぼれなど…、プライドは、サタンに嫉妬と切望をもたらし、神に反逆させた原罪でした（イザヤ 14:12-15; ルカ 10:18）。最終的に、大言壮語、傲慢、プライド（うぬぼれ）は、人類が欺瞞者に従った主な証拠となるでしょう。

愛が冷え、和解せず、噂話を好み、惨く、憎み合う…。イエス様が言われた様に、「**24:12** また不法がはびこるので、多くの人の愛が冷えるであろう。」（マタイ **24:12**）、自然な慈愛や配慮が失われていきます。

「**3:5** 信心深い様子をしながら、その実を捨てる者となる…。」結局、人々は形式的な意味で「宗教的」になるものの、その様な宗教には、イエス様の御霊によって人生を変える力を欠いています。よみがえられたキリストの現実と、

「わたしたちのうちに働く力によって、わたしたちが求めまと思うところのいっさいを、はるかに越えてかなえて下さることができるかた」（エペソ **3:20**）の力は否定されます。

#### -終わりの時の偽教師たち：3：6-9

パウロは引き続き、人類をこの無力で形式主義的な宗教へと導く偽りの霊的教師たちについて警告します。

**3:6** 彼らの中には、人の家にもぐり込み、そして、さまざまの欲に心を奪われて、多くの罪を積み重ねている愚かな女どもを、とりこにしている者がある。**3:7** 彼女たちは、常に学んではいるが、いつになっても真理の知識に達することができない。**3:8** ちょうど、ヤンネとヤンブレとがモーセに逆らったように、こうした人々も真理に逆らうのである。彼らは知性の腐った、信仰の失格者である。**3:9** しかし、彼らはそのまま進んでいけるはずがない。彼らの愚かさは、あのふたりの場合と同じように、多くの人に知れて来るであろう。（第二テモテ 3：6－9）

旧約聖書の中に登場するヤンネとヤンブレは、モーセが行った奇跡に似た呪術を行うことによって、モーセと競おうとした有名なエジプトの呪術師の名前でした（出エジプト記 7：11,22 を読んでください）。パウロは、それと同様に、御霊の真の働きとイエス・キリストの真の宗教を真似ようとする宗教的な欺瞞者が現れるであろうと言っています。しかし、彼らの愚かさ

は、いずれすべての人に分かる様になるとも言っています。利己的な目的と快樂のために特に脆弱な人々を利用するでしょう。

#### -テモテにコースに留まるよう勧告：3：10-17

その様な大きな反対と欺瞞に直面するテモテに、忠実であり続けるよう再び勧告します。テモテの鍵は2つあります。

1) 正しい模範に従い続けること。2) 神のみ言の真理に浸り続けること。

**3:10** しかしあなたは、わたしの教、歩み、こころざし、信仰、寛容、愛、忍耐、**3:11** それから、わたしがアンテオケ、イコニウム、ルステラで受けた数々の迫害、苦難に、よくも続いてきてくれた。そのひどい迫害にわたしは耐えてきたが、主はそれらいっさいのことから、救い出して下さったのである。**3:12** いったい、キリスト・イエスにあって信心深く生きようとする者は、みな、迫害を受ける。**3:13** 悪人と詐欺師とは人を惑わし人に惑わされて、悪から悪へと落ちていく。**3:14** しかし、あなたは、自分が学んで確信しているところに、いつもとどまっていなさい。あなたは、それをだれから学んだか知っており、**3:15** また幼い時から、聖書に親しみ、それが、キリスト・イエスに対する信仰によって救に至る知恵を、あなたに与えうる書物であることを知っている。**3:16** 聖書は、すべて神の靈感を受けて書かれたものであ

って、人を教え、戒め、正しくし、義に導くのに有益である。**3:17** それによって、神の人が、あらゆる良いわざに対して十分な準備ができて、完全にととのえられた者になるのである。(第二テモテ3：10－17)

「よくも続いてきてくれた。…」ここで、パウロは、彼の人生の10項目とテモテがすでに模倣してきた例を挙げています。それら10項目における、パウロの模範は、まるで生きる聖書の様であったので、テモテにとっては、その模範に基づいて、続けることができます。テモテと同様に、あきらめたり、妥協したりしない信仰を持ち続けることの必要性は、何度思い出させられても足りません。(参照：使徒13:14－14:20、パウロの働きと、その結果として、ここで言及されている都市での苦しみについて。-アンティオキア、イコニウム、リストラ。)

「靈感を受けて」(第二テモテ**3:16**)という言葉は、ギリシャ語の2つの言葉から構成されています。-theo(神)とpneustos(息)。聖書は「神のいぶき」です。つまり、み言は神のいぶきそのものから来ています。そのため、聖書には、すべての善い行いに備えてくださる力があります。ですから、定期的に、神のみ言と質の高い時間を過ごすことが重要です。

多くの人に読まれている最も重要な「聖書」は、あなた自身の生き方です。実際、あなたの生き方は、周囲の人々が目にする唯一の「生きる聖書」である可能性があります。人が

興味を抱き、最終的にイエス・キリストのみ言に信頼できると確信する前に、あなたの経験の内に、イエス・キリストが生きておられるという現実を見る必要があります。ある世代から次の世代への信仰の移り変わりは、「言葉だけで」起こることはありません。他者の目に、私たちの日常生活における信仰の現実が生きているのを見るとき、信仰が受け継がれていきます。私たちの歩みは、私たちが語る言葉と一致する（そして強化する）必要があります。そうでなければ、私たちが口で言うことは、まったくの偽善と見なされます。

テモテがパウロに会うずっと以前に、母親と祖母から多くのことを学びました（参照：第二テモテ 1:5）。「**また幼い時から、聖書に親しみ、…（第二テモテ 3:15）**」。これは、テモテの幼児期の頃から旧約聖書が読まれていたことを意味します。ここでパウロはテモテに、神の靈感を受けたみ言に深く根ざし続けるように勧告します。そうすることによって、神のご計画とお目的に沿って、彼の人生を軌道に乗せてくださるからです。「**ととのえられた**」（第二テモテ 3:17）という言葉は、ギリシャ文学の中で、旅の前に「完全に装備された」船のために用いられました。神のみ言は、私たちに人生の旅の準備を整えさせることができます。

親には、幼い乳児に聖書の物語、特にイエス・キリストの生涯を教え始める特権と責任があります。子供たちは、物語

が大好きで、非常に教えやすいです。おそらく、あなた自身、幼い頃から聖書の物語を教えられて育っておられないかもしれません。だとしても、子供たちに聖書の物語を読み聞かせながら、あなた自身も学ぶことができます。子供たちに聖書の物語を教えることの必要性を重視し、若い親たちに協力的な教会は、大きな支援となるでしょう！一人でやろうとしないでください。私（チャーリー）は、最初の子供が二歳のときに参加できた日曜学校のクラスに、ボランティアとして参加しました。これは、教会で聖書を子供たちや若者に教えながら、私自身が学ぶ数十年間の旅の始まりでした。

#### パウロの最後の勧告：4：1-5

パウロは、テモテに最も厳粛な勧告を与え、いよいよ手紙を締めくくります。その厳粛さは、「**神のみまえと、生きている者と死んだ者とをさばくべきキリスト・イエスのみまえ**」に命じているところから明らかです。父なる神とキリスト・イエスという権威あるお方が私たちの生き方の証人となられることに気づくとき、その権威あるお方に従わざるを得なくなります。

イエス様のお名前と称号についての備考：パウロ書簡全体を通して、頻繁に権威の位置-「キリスト」がイエス様のお名前の前に置かれています。「キリスト」は、「メシア（救世

主)、または油そそがれた者」を意味する称号です。(「救世主イエス」と同じ考えです。)[主]が「イエス・キリスト」の前に置かれる場合、それは支配または王権(主権)の考えを強調します。4つの福音書に記されている様に、「イエス」という名は、誕生の際に初めて与えられました。これは「神は救ってくださる」という意味で、当時、一般的な名前でした。

「1:21 彼女は男の子を産むであろう。その名をイエスと名づけなさい。彼は、おのれの民をそのもろもろの罪から救う者となるからである」(マタイ 1:21)。「イエス」という名称は、福音書と使徒の働きの中で用いられました。ヘブル人への手紙を除いて、「イエス」という呼び名が他の新約聖書の著者たちによって単独で用いられることは殆どなく、むしろ「主」または「キリスト」、あるいは、その両方を伴っていました。この様に、新約聖書の著者たちは、イエス様の地上における(人としての)お名前ではなく、イエス様の立場と権威を強調していたことがわかります。

4:1 神のみまえと、生きている者と死んだ者とをさばくべきキリスト・イエスのみまえで、キリストの出現とその御国とを思い、おごそかに命じる。4:2 御言を宣べ伝えなさい。時が良くても悪くても、それを励み、あくまでも寛容な心でよく教えて、責め、戒め、勧めなさい。4:3 人々が健全な教に耐えられなくなり、耳ざわりのよい話をしてもらおうとして、自分勝手な好みにまかせて教師たちを寄せ集め、4:4 そして、真理

からは耳をそむけて、作り話の方にそれていく時が来るであろう。4:5 しかし、あなたは、何事にも慎み、苦難を忍び、伝道者のわざをなし、自分の務を全うしなさい。

(第二テモテ 4 : 1 - 5)

人生のあらゆる季節に忠実と忍耐をもって神のみ言を説教し、福音を伝えるようにパウロは勧告しています。特に人々が真理から離れ、自分が聞きたい話へと興味が移ろうとしているときは、一層、福音を伝え続けることが重要です。人々は、神の道に自分自身を適合するのではなく、自分の道に「神」を適合させたいと思うようになるでしょう。そのような環境において神のみ言を教えるためには、忍耐と根気が必要になります。聴衆の反応に合わせて教師が決意を形状するのではなく、むしろ、教師の決意によって、聴衆の反応を形状する必要があります。

「善と悪」の間の戦いは、これまでも、また、これからも、基本的に、神の真理とサタンの嘘との間の戦いです。

「偽りの父」(ヨハネ 8 : 42-44 で、イエス様がサタンのことを「嘘の父」と呼ばれました。)は、エデンの園でアダムとエバに嘘をつきました(「神は本当に言ったのですか...?あなたは死ぬことはないでしょう...」創世記 3 : 1-5) それ以来、サタンは人類に嘘をつき続けています。「文化は漂流している」と思われるかもしれませんが、実際には、文化は「この世の神(サタン)」(ヨハネ 12:40; 14 : 30 : 2 コリ 4 : 4)によって導かれています。サタンは、あらゆる面で神の真理に

反対するために働きかけます。サタンの偽りに対抗するための唯一の武器は、攻撃的な武器である神のみ言（エペソ 6:17）、御霊の剣です。これはまさに、イエス様ご自身が荒野でサタンの誘惑に対抗されるために用いられた方法です。イエス様は、サタンの嘘に対抗するために聖書を引用されました（マタイ 4：1-11;マルコ 1：12,13;ルカ 4：1-13）。全能なるお方、イエス様がサタンの嘘に対抗されるために聖書のみ言をお用いになったのであれば、私たちも、サタンの嘘から身を守るために、聖書のみ言をより一層知る必要があります。イエス様はサタンについて、「**10:10 盗人が来るのは、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためにほかならない。**」（ヨハネ 10：10）と言われました。神の真理を読み、瞑想し、適用することに熱心でなければ、サタンは私たちの信仰を破壊しようとしています。私たちは神の真理に強く根ざしていなければなりません。そうでないと、サタンの嘘がますます勢いを増し、私たちを真理から引き離そうとします。

#### パウロの自信：4：6-8

パウロは今、主への自信を表明しています。パウロは、イエスによって与えられた任務を完了し、主の御前にたって、義の栄冠をいただく準備が整っていました。

**4:6** わたしは、すでに自身を犠牲としてささげている。わたし  
が世を去るべき時はきた。**4:7** わたしは戦いをりっぱに戦いぬ  
ぎ、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした。**4:8** 今  
や、義の冠がわたしを待っているばかりである。かの日に  
は、公平な審判者である主が、それを授けて下さるであろ  
う。わたしばかりではなく、主の出現を心から待ち望んでい  
たすべての人にも授けて下さるであろう。

#### （第二テモテ 4：6－8）

パウロの人生は、すでに自信を注ぎの捧げ物（殉教者として血を流すであろうという預言）としてささげていると言っています。

「Departure（出発）／去る」とは、船が出航するという意味の言葉でした。パウロはテモテに、ただ厳粛な勧告を与えただけでなく、パウロ自身が同じ任務を果たし、主に会うために出発する準備が整っていると仰っていました。「appearing／出現」という言葉は、ローマ皇帝が町を訪れたときに用いられた言葉です。彼らは花冠や花輪で街を飾り、道路を舗装し、皇帝の通り道のすべての家を白塗りにしました。皇帝の登場が差し迫っていたとき、すべてが一変しました。パウロは、主の出現を熱心に期待している信者にとって、すべてが一変するべきだと言います。

パウロは私たちに「成し遂げる」ことの素晴らしい模範を示しています。パウロは、主イエスから学びました。弟子た

ちとの最後の夜、イエス様は天の父に祈られました（ヨハネ第17章）。「**17:4** わたしは、わたしにさせるためにお授けになったわざをなし遂げて、地上であなたの栄光をあらわしました（ヨハネ17:4）。」パウロは死に近づいたとき、人生における神の目的を果たしたと確信していました。戦い抜き、走るべき道のりを走りぬき、信仰を守り通しました。これは私たち一人一人が自問すべき質問です。私たちが旅の終わりに達するとき、パウロの様に自信を持って「成し遂げた」と言うことができるでしょうか？

#### 最後の願い：4：9-18

パウロがテモテに特定のことを要求したとき、この手紙は非常に個人的な手紙となりました。パウロは、テモテが冬の前に急いで来て、ジョン・マルコも連れてきて、実用的な物品、パウロの外套と彼の本を持ってくるよう頼みました。

**4:9** わたしの所に、急いで早くきてほしい。**4:10** デマスはこの世を愛し、わたしを捨ててテサロニケに行ってしまう、クレスケンスはガラテヤに、テトスはダルマテヤに行つた。**4:11** ただルカだけが、わたしのもとにいる。マルコを連れて、一緒にきなさい。彼はわたしの務のために役に立つから。**4:12** わたしはテキコをエペソにつかわした。**4:13** あなたが来るときに、トロアスのカルポの所に残しておいた上着を

持ってきてほしい。また書物も、特に、羊皮紙のを持ってきてもらいたい。（第二テモテ4：9－13）

「羊皮紙」とは、動物の皮に保管されているパウロの特別な本を指します。これはおそらく聖書の写しの言及と考えられます。

パウロを大いに傷つけたアレキサンデルという危険な人物についての警告があります。アレキサンデルは、裁判で、パウロを非難したに違いありません。そのとき、誰もパウロを擁護するために立ち上がった者はいませんでした。テモテは、アレクサンデルが他の人にも危害を加える可能性があるかと警告しています。パウロは裁判で仲間に見捨てられたにもかかわらず、主がいつも傍にいてくださることを知っており、キリスト・イエスへの信仰を最後まで証言する力をパウロに与えてくださいました。

**4:14** 銅細工人のアレキサンデルが、わたしを大いに苦しめた。主はそのしわざに対して、彼に報いなさるだろう。**4:15** あなたも、彼を警戒しなさい。彼は、わたしたちの言うことに強く反対したのだから。**4:16** わたしの第一回の弁明の際には、わたしに味方をする者はひとりもなく、みなわたしを捨てて行った。どうか、彼らが、そのために責められることがないように。**4:17** しかし、わたしが御言を余すところなく宣べ伝えて、すべての異邦人に聞かせるように、主はわたしを

助け、力づけて下さった。そして、わたしは、ししの口から救い出されたのである。4:18 主はわたしを、すべての悪のわざから助け出し、天にある御国に救い入れて下さるであろう。栄光が永遠から永遠にわたって主にあるように、アメン。（第二テモテ4：14－18）

#### 最後の挨拶：4：19-22

パウロは、通常手紙の最後で、非常に個人的に、手紙を受け取る側の町の最愛の友人に挨拶を送りました。-この場合、テモテが牧師であったエペソでした。

4:19 プリスカとアクラとに、またオネシポロの家に、よろしく伝えてほしい。4:20 エラストはコリントにとどまっております、トロピモは病氣なので、ミレトに残してきた。4:21 冬になる前に、急いできてほしい。ユブロ、プデス、リノス、クラウデヤならびにすべての兄弟たちから、あなたによろしく。4:22 主が、あなたの霊と共にいますように。恵みが、あなたがたと共にあるように。（第二テモテ4：19－22）

プリスキラとアクラは、パウロの宣教の殆どを共にした友人であり同労者でした。この二人は、パウロの人生や手紙に頻繁に登場します。二人は今、エペソに戻り、家庭教会を開いています。オネシポロは、この手紙の冒頭で、パウロの勇気ある働き人として、パウロに称賛されました（第二テモテ1：16-18）。アジアからのトロピモは、パウロが最後のエルサレムへ

戻る旅で、パウロに同行しました（使徒20:24;21：9）。その後、ある時点でトロピモは、パウロと再会し、途中、病でミレトに残されました。（パウロは宣教の中で、人々を癒しました、しかし明らかにこの場合、トロピモは癒されませんでした。今も昔も誰もが経験している様に、すべての病人が奇跡的に癒されるわけではないということです。）。ユブロ、プデス、リノス、クラウデヤは、いずれもローマ人の一般的な名前です。彼らは、パウロの最後の投獄中に、イエス・キリストの信者になった、カエザルの家に仕える者たちの中にいた可能性があります。この最後の4人は、名前しか記されていませんが、主が、ローマの信者としての彼らの信仰と勇気をご存じです。

「恵みが、あなたがたと共にあるように。」これはパウロの個人的な別れの言葉であり、手紙を閉じるときに必ず添えられた祈りの言葉でした。キリスト者を迫害する者であった「サウル（後のパウロ）」が主の従者を迫害し、逮捕するために、ダマスカスへ向かっていた旅の途中の道で復活された主イエス・キリストとの劇的出会いが起きました（使徒9：1-22）。あらゆる人々の中で、パウロ自身が罪人のかしらであるが、あわれみ深い神が、代わりに恵みを注いでくださったという証を語り続けることに飽きることはありませんでした。イエス・キリストを信じる前に、あなたがどの様な人であったかを思い出してください。現在の状況でも最悪の瞬間を覚えているので、サタンの嘘があなたに恥をかかせようとする



働きかけを許さないでください。むしろ、神の恵みに焦点を合わせ、私たちに値しない神の恵みがあなたを洗い流し、イエス・キリストを通して、あなたの心を神に引き寄せていただくことを許してください。

### ディスカッションの質問

1. 第3章は、聖霊様がパウロを通して、人々のどのような態度や行動が明白になるかを予測することから始まります。これらの中から、あなたの周りで起こっているのを観察されたのはどれですか？
2. 自分の中でも、識別できますか？神の愛と恵みを忘れないでください。あなたが認めるとき、あなたを癒し、成長させてくださる準備ができています（参照：1ヨハネ1：8-10・告白について）。信頼できる友人、配偶者、さらには子供がいて、あなたがいずれかの様に話したり行動したりした経験があるかどうかを尋ねることができますか？
3. パウロはテモテに、母親と祖母だけでなく、パウロからも学んだことを思い出し、確信するように勧めました（3：10-14）。誰から神について学びましたか？彼らが信仰を知り、信仰に生き抜く上での影響力は、あなたが「確信」するのに役立ちましたか？

4. 第3章16,17節は、聖書の特異性を教えてくれます。あなたが神のみ言によってどの様に影響を受けたかを説明してください。学んだことを日常の状況や他の人との交流にどのように応用できるでしょうか。

5. パウロは、恐れ、苦しみ、試練、仲間に見捨てられた中で、神の力について、テモテに手紙を書くことから身を引くことはありませんでした。キリストの弟子であり僕としての生活は、パウロにとっても、テモテにとっても大変困難でした。パウロとテモテが経験したこれらの現実は、あなたにどのような影響を与えますか？

6. 自分の人生の試練に直面して、どの様に神のみ言に根付き続けていますか？

7. 第二テモテをもう一度読みましょう。あなたが意識を傾けたいと思われるいくつかの主な点は何ですか？